

安積疏水（猪苗代湖疏水）とは Introduction of the Asaka Irrigation

知野 泰明

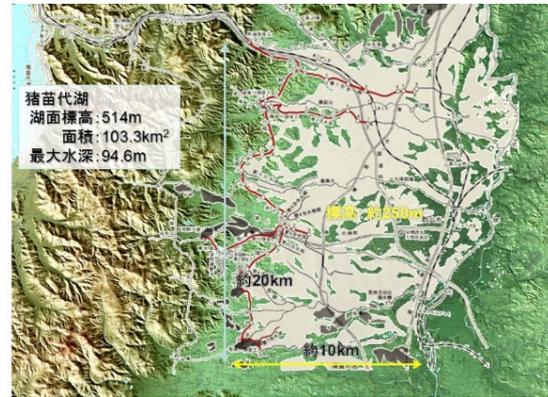
Yasuaki Chino

1. 安積疏水（猪苗代湖疏水）とは

安積疏水は明治初頭の殖産興業と士族授産政策の一環として計画された国営事業である。那須疏水、琵琶湖疏水と続く三大疏水事業の嚆矢で、当初は猪苗代湖疏水と呼ばれた。近世まで用水に乏しかった安積原野（現福島県郡山市街地域）を開拓すべく、その水が猪苗代湖に求められ、導水のために奥羽山脈を貫く疏水計画が実施された。明治12（1879）年に起工、同15年竣工した。完成当時、延長は幹線水路52km、分水路78km、トンネル37箇所、受益面積が約3,000haで、全国から9藩士族500戸が入植した。実現には設計顧問として参加した御雇い蘭人工師ファン・ドールンの功績も大きい。現地調査や測量、路線選定のための資料作成、施工（延べ85万人）については我が国の人々の関与が大きかった。明治32年には、奥羽山脈から安積方面の水路出口に沼上発電所が建設され、日本発の長距離送電の草分けとなった。昭和41（1966）年に完了した新安積疏水建設の国営事業により受益面積1,519haを増加した。安積疏水は郡山市発展の原動力となり、現在でも水需要で重要な役割を果たしている。疏水水路の末端部は、今日、排水路として利用されているが、市街地路線の一部は近年「せせらぎこみち」と名して整備がなされ、地上面にせせらぎ水路と遊歩道が、地中部には防火用水の貯留を伴う水路という上下2段構造にされた。平成14（2002）年度には土木学会選奨土木遺産、平成28年度に世界かんがい施設遺産と日本遺産に認定された。

2. 地形からみた安積疏水が流れる仕組み

安積疏水の水量確保のために、猪苗代湖北西部の流出口に十六橋水門が建設された。この水門設置により猪苗代湖にて会津方面の既得水利権を侵さずに安積疏水分の水量を確保できるようになり、安積疏水が具体化した。



図－1 安積疏水灌漑地域（白色域）
（赤線は疏水水路、安積疏水土地改良区パンフレットの地域図を知野合成）
Irrigated area by the Asaka Irrigation
Chanel



写真－1 安積疏水十六橋水門
Jyurokkyo Water Gate for the
Asaka Irrigation

3. 安積疏水を実現した明治初頭という時代

大久保利通提案の7大プロジェクトに①野蒜港築港、②新潟港築港、③越後・上野運河開削、④大谷川運河開削と那珂港修築、⑤阿武隈川改修、⑥阿賀野川改修、⑦印旛沼を検見川に結び東京へつなぐ水路の開削があり、これらに加えて安積疏水事業は実施された。

大久保利通は、東北地方の内陸運輸体系を整え、野蒜（宮城県）を集積地の拠点とした開発を考えていた。

4. 安積疏水(猪苗代湖疏水)事業で果たしたファン・ドールンの役割

ドールンの安積疏水設計への貢献は以下の復命書に見出すことができる。

ファン・ドールンの復命書

(1879 (明治12) 年1月5日付で石井土木局長へ提出)

日本水政 第四百四十七号

上申 猪苗代

水ヲ猪苗代ヨリ引以テ福島県ノ稻田ニ漑グニ供スル溝渠ノ計画

第一 所要ノ水量ヲ定ムル事

インド、エジプト (ナイル川)、イタリア、スペインでの灌漑水量と地質特性から、水田に必要なとされる単位水量を算出

第二 猪苗代湖

明治十一年五月から開始した猪苗代湖の水位観測結果を基に、会津方面への水利に支障のない安積疏水の水量確保と
そのための (十六橋) 水門設置を提案

第三 翁沢ノ堰

(十六橋) 水門部分の詳細設計

(水門直下河床の2尺の盤下げ→工事にて実施)

第四 山瀉ヨリ熱海等ニ向フ灌漑溝

(イ) 猪苗代ト田子沼トノ間ノ溝渠

(ロ) 田子沼ヨリ五百川ニ向フノ暗溝管

(ハ) 熱海以下ノ溝渠

5. おわりに

ファン・ドールンは安積疏水と野蒜築港の両設計に関与した。野蒜築港はドールンが調査設計の中心となり明治11年に着工、15年に内港が完成するが、17年の台風被害後、中止される。大久保利通が推進し西欧技術との連携により進められた東北開発の大事業は明暗を分けた結果となった。安積疏水の実現は我が国の人々の関与に大きいものがあつた。

参考文献：日本大学安積開拓研究会『殖産興業と地域開発 -安積開拓の研究-』、柏書房、1994年

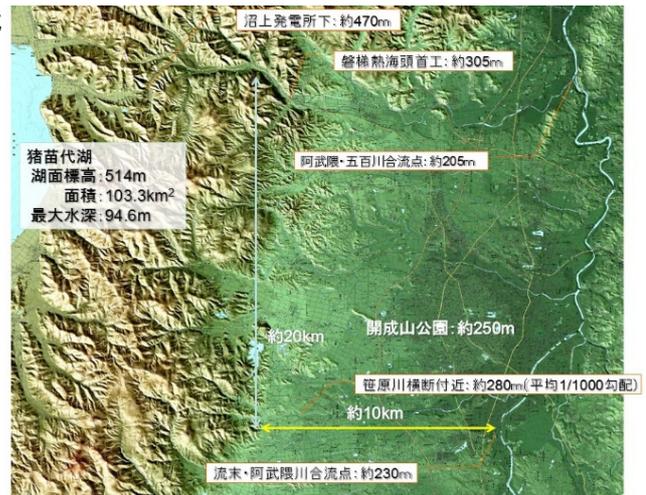


図-2 疏水路概況(地形はカシミール3Dと国土地理院5mメッシュデータで知野作図)
Geographical Location of the Asaka Irrigation Chanel